

西垣 ^{きよし}清さん (山南町大河)

今年で82歳になる西垣清さんは、丹波市シルバー人材センターで賞状や卒業証書、神社の木札などに筆で字を書く筆耕の仕事をしています。3名が段位を取得する同センターの書道同好会「筆遊会」の講師を務め、自身の後継者となる人材育成にも携わっています。日々精力的に活動している西垣さんにお話を伺いました。

書道を始めてから29年で師範を取得

「字の上手は一生の徳。不可能を可能にするそれは努力である」という親からの言葉を受け、25歳から筆を執りはじめました。「毎朝早起きし、書道の練習をしてから仕事に行っていました。夏休みの子どもの作文に、「お父さんは毎朝早くから勉強している」と書かれたことも」と苦笑い。54歳の時に、こうした努力が実を結び、指導者として認定され、最もレベルの高い資格である師範を取得。習字教室を開いたり、展示会にも出展するようになりました。

筆耕が仕事になり、市民憲章にもかかわる

46年間働いた会社を64歳で退職した後、シルバー人材センターの会員となり、市役所や公民館の事務を経て、現在は筆耕が主な仕事になりました。「筆耕として印象に残っているのは、市役所・各支所に飾られる市民憲章や、柏原八幡宮の木札などを書いたこと。たくさんの人の目に触れる大きな仕事をするのができ、嬉しかったです」と笑顔。

健康の秘訣は毎日の運動

歳を重ねても毎日精力的に動くことができる健康の秘訣は、毎日の運動と西垣さん。歩くことで認知症の予防ができると書かれた本を読んだのをきっかけに「毎日1万歩」を目標に歩いています。また、最近はグラウンドゴルフを月2回、自治会でやっている練習にも毎週参加して、体を動かしながら今日も筆を執ります。



自宅の玄関に掲げられた文化書道師範認定教場の看板と清さん（右）と鈴子さん



師範の資格を取得し、仕事場となった自宅の書斎



西垣さんが筆を執った柏原八幡宮の木札



書道同好会「筆遊会」で講師を務める西垣さん（右）

おじいちゃん、
おばあちゃんへ
メッセージ!

